

失敗してこそ成長する

教師をしていると、子どもは偉大な存在だと思ふことが多々あります。幼い子どもたちから、たくさんのことを教えられます。人間には、経験や理解が進むほどに成長し、優れていく部分が多々あります。

しかし、こと、育ちの過程で身に付けたありのままの心のもちようにおいては、年齢における上下は無いのだと気付かされます。

その一つが「許すこと」です。

子どもたちに指導をした後で「ああ、あんな言い方じゃなくて、もっと別の言い方をすればよかった。」「あんな指導の仕方じゃなく、もっとやり方があったはず・・・。」と後悔することがよくあります。後悔して家に帰ってもずっと考えて、「あの子、今頃どう思っているだろう。明日はどんな顔をして来るかなあ。」と心配で・・・。

ところが次の日学校に来てみると、子どもたちは「ケロッ」として、ニコニコしている。「先生！」と笑顔で声をかけてくれる。「ああ、良かった！ 笑顔で今日を迎えてくれて本当に良かった！！」と胸をなで下ろす。そんな経験が、私にはたくさんあります。子どもというのは本当に偉大だと思う瞬間です。

この、子どもたちの天真爛漫さは「許す」ということとはちょっと違うのかもしれませんが、しかし、我々教師が、失敗を繰り返しながら腕を磨いていけるのは、子どもたちが「失敗を許してくれるから。」と考えることもできるのではないかと思うのです。

「失敗学」という学問があります。そこでは、失敗を3つに分類しています。1つは「織り込み済みの失敗」です。ある程度の損失は承知の上で、利の方を取った場合に起こる失敗であり、次につながる失敗と

いえます。2つめは「結果としての失敗」です。失敗を恐れず果敢に挑戦した際に起こる失敗であり、これも、未来を生む失敗といえそうです。3つめは「回避可能であった失敗」です。気を付ければ防ぐことができた失敗で、無くしていく努力が必要な失敗です。

このように考えると、1と2の失敗はとても大切になってきます。

戦時中、日本の戦闘機は装甲板が薄いため、多くの場合、撃たれたら死に至ることが多かったそうです。しかし、アメリカの戦闘機は装甲板が厚く、撃たれて飛行機は落ちても、パイロットは救出され再び戦場に戻ったそうです。したがって、日本のパイロットの熟練度は上がり、アメリカのパイロットはどんどん熟練していったといえます。例えとしてはあまりよくありませんが、これも失敗が許されることの大切さを物語る一つの例ではないかと思えます。

人は誰しも「初めての今日」を生きています。「経験」という虎の巻をもってしても、今日何が起こるかなんて誰にも分からない。そんなただでさえ未知の今日、何か新しいことに挑戦しようと思えば、失敗は必至かもしれません。また、失敗の先の成功を求めれば、織り込み済みの失敗で少々ケガをするかもしれません。だから多くの人は無難でいたいと思ってしまう。

まして子どもたちはまだ虎の巻を持っていません。失敗を恐れ、消極的になる子が多くなるのは当然です。だからこそ、周りの大人が「前進したからこそ失敗したんだ。よくやった！」と励まし続けることが大切です。子どもたちには失敗の先にしか手に入らない経験や成長、成功をたくさん手に入れて欲しいと思います。そして我々も、行動でその大切さを教えたいものです。

五ヶ瀬ならではのスキー体験

「今年は本当に雪が降らない。」「こんな年は初めてだ。」と多くの人からお話を聞きました。昔は、山ほど雪が降り、竹を割ってスキー板にして滑っていたり、庭先にかまくらを作ったりしていた方もいたそうですね。そんな五ヶ瀬にとって、今年の冬は異例の暖かさのようです。そんな中、1・2年生の子どもたちは、1月にスキー体験を楽しみました。2月には5・6年生も楽しむ予定です。こんな体験がさせてもらえるのは、宮崎県では唯一五ヶ瀬の子どもたちだけであり、他の市町村の子どもたちからしたら「うらやましい」の一言に尽きると思います。他にはない宝物が一杯の五ヶ瀬町に生まれて、子どもたちは幸せです！

子ども達の健闘をたたえます！

◇第50回宮日ジュニア展

入選 4年生 藤善 七歩 畦池 来夢

◇西臼杵造形教育研究会審査会

優秀賞

1年生	長田 翔有	篠村 桐心
2年生	甲斐 翔也	藤本 遙真
3年生	藤本 琉花	松田 花音
5年生	松田 公久	菊池 明楽
6年生	甲斐 右恭	長田 墨生

◇「食と農」壁新聞コンクール

みやざきブランド推進

西臼杵地域本部長賞

4年生 倉 貫介

バードウォッチン

グ

先月は、カラスのけんかのお話でした。右の写真は、カラスが鳶（トビ）を追いかけている様子です。



これは、モビングといわれる行動で、野鳥の世界ではよく見られる行動です。

モビングとは、通常は他の動物に捕食されている小鳥などが、外敵に対して攻撃をしかける行動で擬攻（模擬攻撃）と呼ばれることもあります。なぜ擬攻かというと、この行動の目的が、攻撃ではなく、嫌がら

せをして追い払うことにあると考えられているからです。この行動は、大別して二つの状況下で見られます。一つは、外敵が巣や巣立ち雛に近づいた時です。この場合は、その巣の親鳥が、あるいはその周辺にいる何羽かの鳥がいっしょになってモビングを行います。もう一つは、枝にとまっているフクロウ類や空を飛ぶワシタカ類を見かけた時です。この場合には、付近にいる同種あるいは異種の鳥が群れになって行うことが多いようです。

もしかしたら、私が見かけたカラスのけんかも、モビングだったのかもしれませんが。余談ですが、職場にもモビングといわれる集団で一人を追い詰める行為があるといわれています。本当に怖い話です。

おまけ 頭の体操

問題 （早稲田中入試問題）

「トオモオカアサー」という魔法の呪文があります。この呪文を唱えると、3で割り切れる数は、その数を1/3倍した数に変わって、3で割り切れない数は、その数に1を加えた数に変わります。

例えば、呪文を3回連続して唱えると、7は3に変わります。これは、1回目の呪文で7が8に変わり、2回目の呪文で8が9に変わり、3回目の呪文で9が3に変わるからです。

では、ここで問題です。この呪文を4回連続して唱えると1に変わる数は、1から50までの整数の中に何個ありますか？

答え _____ 個

※ 「トオモオカアサー」という呪文には特別な意味はありません。「さかもと」を反対に読んだだけの造語です。

答えがお分かりになられたら、学校まで連絡ください。

坂本小学校の合言葉

あ あかるく
し しんけんに
た たくましく